

今年度の取組目標と自己評価及び次年度の課題と対応

1 教育活動の取組と自己評価および次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導の充実

①生徒の主体性や協働性を高める指導法を工夫する。

授業評価 問4「あなたは、この授業に自分なりの課題や目標をもって取り組んでいるか」肯定的評価83%
SS 科学技術探究や課題研究の授業を中心に、探究活動を通して、自ら課題を発見し、意見をまとめる学びを、繰り返し行った。また、10月に3年が課題研究発表会をオンラインで実施、2・3月に2年が課題研究発表会を分野ごとに実施、3月に1年が探究発表会を実施し、主体的に課題を見つけ研究し発表する活動を実践した。
〔課題と対応策〕上記の取組が普通教科でも好影響を及ぼしているかの検証等を行っていくとともに、授業評価の質問項目についても精査し、次期学習指導要領の主体性評価を実態に即して図れるように改善する。

②ICTやALの手法を効果的に活用して授業の効率化を図る。

授業評価の設問1～問4までの全体を通した肯定的評価86%

ICT機器を活用し、視聴覚に訴える教材を作成することで生徒の想像力を補い、積極的に授業に参加する態度を育成した。ICT機器を毎回利用する授業もあり、教材としての活用が定着している。ALについては、コロナ禍で全体的にはやや低調であった。生徒による授業評価アンケートで、1・2学期ともに全体を通した肯定的回答が8割5分を超えていたが、一部では8割に満たない教科もあった。

〔課題と対応策〕ICTの活用の有無に限らず、学びを深める意味では語句埋め的な発問から、意見や理由を求める発問へ移行することが課題である。相互授業参観や他校の良い授業実践を見る機会を作る。

③科学技術に関する専門科目や課題研究の指導を充実させるとともに、報告書の作成や説明能力、プレゼンテーションスキルを高める指導を充実させる。

校外における発表件数 80件、全国レベルの発表件数 5件

1年のSS科学技術探求、2・3年では発展的な内容を取り組む課題研究、科学研究部を始めとする部活動において、探究活動への動機付けを行うとともに、様々な視点からの意見を交換することで研究の質の向上を図った。JAXA等の最先端研究施設での研修など様々な外部研修が中止となり、学校行事も中止が相次ぎ、発表の機会が減少したが、年度後半からオンラインでの発表が出来るようになり、校外における年間発表件数は口頭発表やポスター発表など80件を超えることができた。また、セコム科学振興財団から助成金を受け、本校を会場として、理系女子の為の研究発表交流会を実施できた。

〔課題と対応策〕コロナ禍により、オンラインでの発表が主流になる中、オンラインでの発表スキルを磨くことや、本校でウェブ開催に参加するときのWi-Fi環境等を着実に整備・改善していく。

④相互授業参観等のOJTを充実させ、校内研修等で研鑽を積み、授業力の向上を図る。

若手教員の研究授業等への授業参観数が学期を追うごとに改善が見られた。授業公開週間はコロナ禍の為、年1回の実施に留まったが、次年度は相互授業参観を活性化し、授業力の向上に努める。

⑤外部での授業研究等の研修成果を教科会や研修会等で還元し教科指導の改善に努める。

指導教諭の模範授業を実施するとともに、複数の教科が他校の良い授業実践を参観し研修に努めたが、実践事例数や模範授業参観数は少なかった。次年度は進学指導研究校事業を有効活用し、他校の良い授業実践を参観できる体制を整えていく。

⑥全学年で朝・放課後の学習活動、補習や補講等を活用してきめ細かな指導を充実させる。

夏季講習 43件（例年と違い、夏季休業が2週間のみとなり、一概に比較できない）、補習も随意実施した
1・3年では朝学習、2年では英語・数学の課題を出し、学習習慣の定着を図った。数学・理科・英語では、習熟度別・少人数授業を実施してきめ細かい指導を行った。2,3学年では各1クラスの選抜クラスを設け、成績上位層の一層の学力アップを目指した。今年度は3年がスタディサプリ、1・2年はクラッシーを導入し、さらに年度途中に1・2年も任意登録でスタディサプリを取り入れ、オンラインでの講義が受けられるようにしてきた。引き続き各学年での到達度テストや教科における朝学習や宿題等で活用を図っている。

⑦新教育課程への円滑移行とともにオンライン学習を効果的に活用することで学力スタンダードを実施する。

新教育課程への各教科において、スタディーサポート等の結果を分析してきた。また、生徒の学力定着に役立てるとともに学習指導への改善に向けた取り組みを図ってきた。

⑧国際性を高めるために、海外交流を積極的に行うなど活動を充実させる。

国際交流及び研修 4件 英語検定準二級以上合格者32名

海外交流はコロナウイルス感染症の世界的な拡大を受けて、すべて中止となった。しかし、外国人研究者の英語講演会を年2回開催し生徒の英語力や英語での科学探究心の育成に努めた。また、台湾の台北市立木柵高級工業職業学校との姉妹校提携延長の調印式をオンラインで実施できた。生徒会役員が関わったものの、多くの生徒が関わるのが困難な状況であった。3月に台湾・麗山高校とのオンラインの共同研究発表会では3組の生徒が英語で発表し、質疑応答するなど大きな成果があった。英語検定試験は6月第一回が中止、第二回では第2回受験者152名、二級に9名、準二級に23名は合格した。

〔課題と対応策〕今後もすぐにコロナ終息は不可能であるため、オンラインでの実施を取り入れ、海外交流を推進していく。英語講演会はクイズ等を取り入れ、生徒が取り組みやすい内容に修正するなど良い実践例を継承していく。英語検定は二次不合格者が多かったので今後もコミュニケーション能力が課題である。また、検定料の値上がり、S-CBTなど別の試験方法の検討、合格者数の把握などが今後の課題である。

⑨各教科でオリンピック・パラリンピック教育を推進する。

12月オリンピック・パラリンピック講演会の実施により、視覚障害や肢体不自由に対する障害者理解を深め、障害を乗り越えてスポーツに挑戦する姿勢を学んだ。

(2) 進路指導の充実

学校評価アンケート 問9「進路指導の連携（保護者評価）」の肯定的評価 62.1%（昨年 57.1%）

問10「進路指導の方法（生徒評価）」の肯定的評価 80.1%（昨年 72.8%）

①生徒の進路希望の実現を目指し、模試分析会を活性化し3年間を見通した進学指導の校内体制の充実。

3学年は分散登校中から面談等を実施するとともに、学校受験の模試回数を急遽増やし対応した。学期毎に模試分析会を各学年で実施して、生徒の学力推移を把握するとともに、教科指導に還元するよう努めた。また、1年対象に2年対象大学入学共通テスト模試(理科基礎3分野)を実施し、3分野ともに全国平均を上回った。

〔課題と対応策〕本校の特色に合わせた模試の活用方法や分析方法に課題があり、次年度以降は新たな模試計画の下、有効な活用方法を検証していく。

②自習室等の整備や学習課題を工夫し、学びに向かう姿勢を高める。放課後や自宅での自学自習の習慣化を図る。

普通教科では週末課題の提出や宿題、小テスト等を活用し家庭学習の定着を図るとともに、放課後や長期休業日には自習室を開放し、自学自習時間の増加を図った。また、3年はスタディサプリ、1・2年はクラッシーおよびスタディサプリの任意登録を導入し、生徒が自宅等の授業以外の時間を活用してオンライン講義を受講できる環境を提供した。

③進学意識を向上の為、進路講演会や成功事例紹介などを実施する

進路ガイダンスを計画的に実施するとともに、2 学期には 1・2 年生で進路選択を主とした保護者会や三者面談等を実施した。3 学期には研究発表会形式の合格報告会を 1・2 年生ともに実施し、本校の特色である総合型入試だけでなく、一般選抜入試等の様々な合格生徒の生の声を紹介することができた。引き続き次年度に向けて進路決定に向けた必要な行事を実施して生徒意識の醸成を図っていく。

④担任と進路部、教科担当者で情報の共有化を図り、個別指導を充実させる。

分野進路を創設し、それぞれの分野ごとに課題研究を土台とした総合型入試を受験希望の生徒対象に面接指導にあたることができた。

⑤専門性を高める資格取得の講習を充実させる。

短期集中講座の期間を利用して、実際の企業等の現場を訪問させるとともに、危険物取扱、溶接等の各種協議会等、生徒が興味・関心を持つような専門性を高める講習や資格取得を目指す講習を実施したことで幅広い知識と職業観の育成に努めた。

(3) 生活指導の充実

学校評価アンケート問 8 「生活指導について」(保護者) 肯定的評価 85.5% (昨年 84.2%)

(生 徒) 肯定的評価 80.9% (昨年 75.6%)

①挨拶の響く明るい学校を推進し、教職員の率先垂範を徹底する。

朝の登校指導や生活委員会の活動、教職員の働きかけを通して挨拶運動を実践した。その結果、生徒の自発的に挨拶をする生徒が増えた。

②遅刻防止指導と身だしなみ指導を全教職員で組織的に指導する。

1 クラス 1 日平均遅刻数 0.92 (昨年 1.28、一昨年 2.21) 今年度は時差通学 9 時 30 分登校の影響大
日頃から、頭髮・服装検査や服装指導を通して、身だしなみ等の規範意識の啓発に努めた。一昨年度一日平均の遅刻者数 2.21、昨年度は 1.28 と大幅に改善。今年度は 9 時 30 分始業の影響が大きい 1 クラス 1 日 0.92 となり目標を達成することができた。遅刻の常習者に対しては、学年・担任団・管理職の継続的な指導とともに、保護者に遅刻の状況を周知し、遅刻指導への協力を得ている。毎学期実施の頭髮指導では、規定の見直しを実施し、指導は継続するが実態に即した文言に改訂した。

〔課題と対応策〕遅刻常習者への早期の徹底指導が課題である。次年度はコロナ禍のため、時差通学は継続するが、登校時間を 8 時 50 分に設定する。次年度以降も組織的な指導を継続する。

③体罰のない学校づくりに向けた取組みを推進する

体罰防止に関する校内研修を年 3 回実施するとともに、教職員が生徒へのきめ細やかな声掛けを励行してきた結果、今年度体罰件数は 0 件であった。

④学校いじめ対策委員会を中心とした指導体制を充実させ、その指導と防止に努める

いじめアンケートを年 3 回実施。6 月学校再開直後、11 月、1 月もしくは 2 月と早めの実施を心掛け、些細なことでも早期に情報交換するなど、いじめ対策委員が中心となって、学校一丸となって取り組んだ。

⑤教育相談委員会及びスクールカウンセラー等による相談体制を充実させ、自殺予防等、相談活動を推進する

スクールカウンセラー及び養護教諭を含め、教育相談委員会を年 14 回開催するとともに、教職員間の情報共有に努め、生徒の自殺防止、相談活動を計画的に推進した。

⑥思いやりの心を育てる取組みや自己管理能力を高める取組みを充実させる

始業式や集会において、インターネットや携帯電話等のサイトに誹謗中傷や個人情報を書き込んだりすることのないようコロナ禍での医療従事者等の事例を挙げながら、相手を思いやる行動をとれるように指導を行った。

⑦授業時間に則って始業及び終業を徹底し組織的に授業規律の徹底を図る

臨時休校、分散登校後に時差通学 9 時 30 分始業の 45 分授業を継続し、ノーチャイム制からチャイム制に移行した。各教科担当者が始業、終業の徹底を行うことで授業規律の徹底に努めた。

⑧情報モラルの徹底や薬物乱用防止教室等の実施により規範意識の向上・啓発を推進する

薬物乱用防止や情報モラルとともに、セーフティ教室をコロナ禍で対面実施や集合実施が出来ない為、各教室で動画視聴等によって開催するなど内容の工夫を図った。また、貴重品の管理等、教室掲示・全校注意等を通じ、注意喚起を行うとともに、生徒部と学年が連携し、組織的な指導に努めた。

⑨交通安全教室、セーフティ教室等を実施し自転車の乗り方や通学マナーの指導に努め、交通安全の徹底を図る。

また、携帯電話やスマートフォンを適正に利用できるよう教職員全員で指導する

交通安全教室を開催するとともに、自転車違反行為やマナー等を校内掲示し交通安全意識の醸成に努めた。

(4) 特別活動・部活動の充実

学校評価アンケート問 17「理数リーディング校に関する他校には見られない教育プログラムが充実している」

(保護者) 肯定的評価 81.5% (昨年 85.1%)、(生徒) 肯定的評価 79.9% (昨年 70.0%)

SSH から理数リーディング校になった年度は大きく減少したが、最近 2 年回復傾向にある。しかし、今年度はコロナ禍で行事等実施していない為保護者評価は下がった。SSH 校に新たに指定され評価を向上させていく。

①文化部推進校として、生徒が発表会やコンテスト等に積極的に挑戦し、その想像力や表現力等を高めることで、その活動を活性化する

コロナ禍で各種大会が中止、発表会も中止もしくはオンライン開催で表彰等実施せずの形態となった。文化部推進校として、全国高等学校総合文化祭東京大会自然科学部門プレイベント・高校生オンライン取材会を 11 月に開催し、本校がサテライト会場となり全国 15 か所の高校生をつなぎ、はやぶさ 2 のミッションマネージャー吉川真さんからの講演会、生徒交流会を実施した。また、東京都高等学校文化祭では自然科学部門は論文審査で科学研究部物理班が最優秀賞を受賞した。弁論部門も本校で大会を実施した。

②外部発表会を活用して発表内容を充実させる

科学研究部物理班が、全国高等学校総文祭和歌山大会で文化連盟賞を受賞するなど活発に活動した。令和二年度中谷医工計測科学技術財団の科学技術教育の助成を受けたことで資金を活用した研究を行い、企業と連携した研究に取り組みを推進し、生徒への研究意欲を掻き立てる内容と成果を得ることができた。また、科学研究部生活科学班の生徒が国際論文の査読を通過し、英語発表した女子生徒はプレゼンテーションアワードを受賞した。その活躍が日経サイエンスに掲載された。

③地域や小中学校と連携して科学技術の啓発に向けた取組みを充実させる

文化祭や学校説明会において科学技術啓発活動がコロナ禍のため実施できなかったが、中学校の出前授業は 2 校実施した。その際、日立ハイテクと連携し、電子顕微鏡をオンラインで遠隔操作する体験講座を実施した。また、例年実施していた江東区の中学生の理科研究発表会も中止となった。

④科学技術科の特色を生かした学校行事や校外活動を充実させる

1 年生全員が予定していた筑波研究施設訪問、科学技術体験研修は中止した。また、尾瀬、西表島、マレーシア・ボルネオでのフィールドワークも中止となったが、かろうじて三浦半島のフィールドワークは実施できた。課題研究等での研究成果の外部発表は年度後半からオンラインで実施可能となり、特に関東近県 SSH 校合同発表会は口頭発表、ポスター発表を合わせて 37 件の発表があった。また、3 学期には短期集中講座で首都大学東京等と連携した高大連携講座、東京大学道上研究室訪問など対面形式の取組も実現できた。

⑤生徒の主体性を伸ばす部活動や生徒会活動を活性化する。

本校生徒会執行部が一般社団法人生徒会活動支援協会の日本生徒会大賞 2020 で優秀賞を受賞。

また、生徒会・ボランティアサポートチーム中心で作成したフェースガード 70 個を江東区教育委員会に寄贈し、江東区の小中学校に配布された。その後、東京都教職員互助会から「ふれあい感謝状 21」優秀賞をされるなど活躍した。運動部・文化部ともに活動は活発で、特に文化部はコロナ禍でオンライン発表がほとんどであったが全国大会レベルでの活躍があった。部活動加入率は73%(昨年82%)であった。レゴ競技同好会がWRO Japan 2020 決勝大会のデモンストレーション型シニア部門に出場、演劇部が東京都高等学校文化祭演劇部門中央大会で米本一夫賞(実質の3位)を受賞、鉄道研究部が全国高等学校鉄道模型コンテスト 2020 でベストクオリティ賞を受賞するなど活躍した。

(5) 保健活動の充実

①学校保健計画に基づき、体力や健康づくり、食育の指導の充実を図る。

コロナ禍の臨時休校明けから毎日の健康観察票の提出や取りまとめ、サーモグラフィでの入校時チェックなどコロナの新生活様式への確に対応した。また、その時期に関連した健康情報「保健だより」を発行し健康に対する意識を高め、コロナ禍での日常生活を送る態度を育成した。また、アレルギー研修や感染症予防研修を実施するとともに、生徒部と連携し、スクールカウンセラーを交えた教育相談委員会を水曜日に定期実施した。また、コロナ禍の3学期には保健委員の生徒が校内放送で昼食時の注意事項を発信に努めた。

②保健室等とスクールカウンセラーとの連携を深めて相談活動を充実させ、生徒のメンタルケアを推進する。

スクールカウンセラーを交えた教育相談委員会を水曜日に年14回実施し、教員間の情報の共有を図ることにより、計画的に生徒・保護者への支援を行うことができた。また、拡大生徒部会やいじめ検討委員会にスクールカウンセラーが参加したことで教員の教育相談への理解が深まった。

③特別支援教育を推進する。

教育相談委員会において、生徒の学校生活に関する事や定期考査対応など、その指導・支援について、学年団や各担当分掌と連携し、全職員と共通理解を図りながら、その個別指導等に対応した。次年度から実施の通級生徒やコミュニケーションアシスト講座等を組合せ、生徒・保護者と相談の上、適正に実施していく。

④清掃活動やごみの分別を徹底して校内美化活動を推進する。

学校評価アンケート問15 清掃状況 肯定的評価(保護者)86.1%(昨年81.2%)、(生徒)64.7%(昨年60%)
保健委員会や保健部が校内昇降口や各教室への消毒液の設置、教室のごみ捨て方法の改善等のコロナ対応に加え、日常のトイレ・手洗い場の石鹸、トイレットペーパー交換等を行った。また、環境整美委員会が清掃用具点検作業、ゴミ分別作業、加湿器管理の美化活動を行うとともに、密回避チェックの為に二酸化炭素濃度測定や公共スペースの清掃を行った。

⑤健康診断や体力テストを活用し生徒の健康維持、体力向上を図る。

体力テストはコロナ禍の臨時休校等により実施しなかった。健康診断も一斉実施ではなく、各部門で工夫して実施し、生徒の健康維持、把握に努めた。

⑥規則正しい生活習慣を身に付けさせることで、生徒の皆勤率を高める。

日頃から正門指導や集会、HR等で生徒の意識啓発に努めた。また、月毎の遅刻指導対象生徒に対して、学年・生徒部・副校長・校長がそれぞれの段階で指導する組織的な指導を確立できた。次年度も遅刻防止とともに取り組んでいく。

⑦保健体育の授業や体力テストとともに体育祭やマラソン大会、球技大会等の体育的行事を充実させる。

5月の体育祭、2月のロードレース大会とともにコロナの影響を受け中止した。学年行事として1・2学年が球技大会等で、クラスの親睦や一定の達成感を与えることができた。

(6) 募集・広報活動の充実

- ①全教職員で組織的に中学校・塾訪問を行うとともに、外部説明会への参加や学校見学会・説明会等に積極的に参加し、体験入学等の学校広報にもこれまで以上に取り組む。

コロナ禍のため、母校訪問や教員による中学校訪問は中止し、学校案内・ポスターは郵送とした。また、学校見学会5回、学校説明会5回(1月はオンラインの個別相談に変更)は事前予約で100名限定の実施、体験入学3回に加え、女子向け体験入学の初開催を含め、それぞれコロナ感染防止対策を施して開催した。学外合同説明会はほとんど中止、例年11月開催の都立高校合同説明会もオンライン開催であった。推薦入試は1.15倍が1.44倍に向上、一般入試1.53倍の応募倍率は昨年並であったが、61名が当日不受検であった為、実質倍率は1.04倍となった。

(課題と対応策) 学力検査の実質倍率の向上が課題である。改善に向けた今年度の検証および次年度に向けてコロナ禍の状況を見極めつつ、中学校訪問や塾訪問等で本校の良さを多くの地域に周知するよう取り組むとともに、第一希望に選ばれる学校へのアピールポイントの精査などを工夫していく。

- ②プレゼンテーション資料を全教職員で共有して広報活動の一貫性と整合性を高める。

学校案内パンフレットやポスターを刷新するとともに、学校見学会や説明会でのプレゼンテーション資料は毎回精査し、発表する管理職や主幹教諭で共有することで一貫性を持たせ、説明会等の質の向上を図った。

- ③ホームページ、学校案内パンフレット及びポスター、学校紹介ビデオの更新と質の向上を図る。

ホームページ更新数は135回(昨年90回)を行い、令和2年5月のトップページ刷新、DJI社と連携したドローンによる生徒制作の学校紹介動画など、複数の動画を掲載、学校ツイッターを利用するなど活性化できた。

(課題と対応策) 3月15日からセキュリティーの脆弱性から教育委員会推奨のホームページに変更した。多くの教員がホームページ作成に携わり、多方面から掲載記事が出てくることを目指していく。

(7) 学校経営・組織体制の充実

- ①周年行事の円滑な実施に向けて、同窓会や後援会と連携し準備委員会を組織しその準備に努める。

20周年行事の令和3年度への延期を臨時休校中に決定し、後援会・同窓会・学校による準備委員会1回(6月)、実行委員会3回(9月、10月、12月、3月)を実施した。年度内に周年誌を発行し、18期卒業生、教職員に配布、その後、19期、20期の在校生、21期の新入生も配布する。周年式典は令和3年10月9日(土)に本校体育館で実施し、第一部式典、第二部講演会の骨子を確定した。着実に準備が整っている。

- ②次期学習指導要領の実施に向け、教育課程委員会を中心に新しい教育課程の検討を図る。

教育課程委員会を定期的に開催し、新教育課程の編成を固めた。しかし、標準単位の厳正化、2025年から刷新する共通テスト問題編成方針による修正は次年度に見送った。新教育課程に向け、グランドデザインを抜本的に改訂しルーブリック評価表を盛り込んだ。

(課題と対応策) 次年度以降にSSH指定校となり、カリキュラムマネジメントを働かせた教科連携への取組が課題である。また、観点別評価導入に向けたルーブリック評価の周知や精査に対応していく。

- ③学校運営は組織的に取り組み、業務分担が偏らなく効率化を図るとともに個人情報管理を徹底する

クリーンデスクを励行し、個人情報の紛失事故は0件だった。また、職員室にホワイトボードを増設し、情報整理に努めた。業務の効率化においては業務の偏りが解消されていない為、複数担当等を推進していく。

- ④部活動の休養日設定等、業務の効率化に努めるとともに教職員の育児や介護を支援するなどライフワークバランスを考えた運営をする。

教職員の育児や介護を支援する時差勤務3形態及びコロナ対応の時差勤務2形態を活用した教職員数が増加し、業務の効率化を推進できた。定時外勤務状況を月毎に教職員へ個別配布し、各自で勤務時間を把握する体制を整えた。10、11月は45時間以上の超過勤務教職員数が20名を超えた為、次年度も注意喚起していく。

⑤経営企画室の経営参画を推進し、進行管理の適切化や教育活動の円滑化に努める。

コロナ禍の影響を受け、大幅な補正予算を組み、旅費等の消化できない部分を体育館放送設備、チャイム設備等に予算を割り、一般需用費のセンター契約集約率71%を達成した。また、次年度以降に始まる空調工事の進捗を適切に周知できた。

⑥地域や外部組織との交流により信頼される学校づくりを推進する。

地域行事はほとんど中止となり、青少年委員主催の江東区都立学校合同説明会は実施せず、ケーブルテレビによる動画撮影に変更した。また、大島地区連合長会等に協力し、医療従事者への感謝を記した横断幕を掲げるなど交流による信頼される学校づくりの推進に努めた。

⑦テニスコート等の施設開放、公開講座の開講により、本校の施設や教育力を地域等の都民へ還元する。

例年公開講座2講座が開校予定であったが中止、屋内施設は全面中止、屋外施設は新型コロナウイルス感染防止対策を施し、9月から12月でグラウンド2日2団体、テニスコート3日6団体へ開放した。

学校経営報告 重点目標（数値目標）

（1）科学技術の関心と基礎力を育てる

①大学や外部研究施設の連携数 50件以上

25件

大学・研究室11件、企業14件。コロナ禍で連携等を休止している大学・企業が多く例年より減少

②校外発表件数 50件以上(コロナ影響下方修正)

80件

校外発表件数は年度後半からオンラインでの実施が可能になった。関東近県 SSH 合同発表会37件

③全国レベルの発表件数 5件以上（コロナ影響下方修正）

5件

国際ジャーナル紙に論文が査読を通過し掲載。総合文化祭高知大会、日本物理学会、日本化学学会等

（2）希望の理系大学進学を実現させる

④国公立大学合格者数 15名以上（昨年 現役15、既卒2）

11名

国公立大学合格数11(東京工業、東京農工、千葉、愛媛、帯広畜産、岐阜、東京都立2、琉球2、宇都宮) 既卒2(東京芸術、山形)

⑤四年制大学進学率65%以上（昨年60%）

62%

上記国公立以外に慶応、上智、理科大等大学進学決定119名で62%

⑥共通テスト受験率60%以上（昨年55%）

受験率未確定 緊急事態宣言下、リサーチは利用者のみ出席 出願率85%、自己採点リサーチ提出者66名
出願率168名（1月16・17日154名、30・31日14名）85%出願

※受験率は、コロナ禍のため国立大等の出願に必要な生徒のみをリサーチ提出させたため不明

自己採点リサーチへの提出者は66名。

⑦授業以外での学習時間 2時間以上(1、2年生共通)(昨年 1時間7分)

1・2学年平均1時間11分

1年 1時間5分、2年1時間16分 ※第2回スタディーサポート学習状況リサーチ結果より

⑧英検準2級程度以上のスコア生徒割合50%(昨年72名)

32名(二級9名、準二級23名)

コロナ禍の為第1回未実施 第2回受験者152名、二次不合格者多い。次年度受験料値上がり。

(3) 責任感と主体性、協働性を育てる

⑨年間遅刻回数1日1学級1人未満(昨年1.28 一昨年2.21と大幅改善、さらに推進)

1学級0.92(人/日)

コロナ禍のため、通勤混雑時を避けた時差通学を徹底し、令和2年度は9時30分始業にしている。

⑩部活動参加率 85%以上(昨年82%)

73%

6月臨時休校明け調査71%、3月調査70% 延べ割合(兼部を別カウント)73%

(4) 本校志願者を増やす

⑪生徒・保護者の本校教育活動の満足度85%以上(生徒70.1%、保護者82.9%)

74%

本校教育活の満足度 生徒76.4%(+6.3)、保護者74.2%(-8.7)

学校評価アンケートから分析すると、臨時休校時のオンライン教育への要望が多かった。

⑫ホームページの更新100回以上

今年度ホームページ更新件数135回

令和2年5月のトップページ刷新、生徒制作の学校紹介動画を複数掲載、ツイッター利用。

⑬推薦入試倍率 1.5倍以上(昨年40%枠で1.15、30%ならば1.5)

推薦倍率1.44倍に向上(男子56名、女子28名合格)

特別推薦志願者7名に増加

⑭一般入試倍率 1.6倍以上(昨年最終応募倍率1.53、実受検倍率1.12)

一般入試最終応募倍率1.52倍(ほぼ昨年並み)

受検倍率1.04倍(不受検者61名、昨年より7名増加)